

既収載品目（医薬品各条（生薬等））の生薬の性状の改正について（意見募集）

生薬の性状において、葉の先端部と基部の形状に「〇〇頭」「〇〇脚」という表現を用いる品目について「先端／基部は、〇〇形」に統一する改正を行います。

1. 対象品目

インチンコウ
ウコン
ウワウルシ
ガイヨウ
シャゼンソウ
センナ
ヤクモソウ

2. 改正案

インチンコウ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は卵形～球形の長さ1.5 ～ 2 mm，径約2 mmの頭花を主とし，糸状の葉と小花柄からなる。頭花の外表面は淡緑色～淡黄褐色，葉の外表面は緑色～緑褐色，小花柄の外表面は緑褐色～暗褐色を呈する。頭花をルーペ視するとき，総苞片は3 ～ 4列に覆瓦状に並び，外片は卵形で，先端は鈍形，内片は楕円形で外片より長く，長さ1.5 mm，内片の中央部は竜骨状となり，周辺部は広く薄膜質となる。小花は筒状花で，頭花の周辺部のものは雌性花，中央部は両性花である。そう果は倒卵形で，長さ0.8 mmである。質は軽い。

本品は特異な弱いにおいがあり，味はやや辛く，僅かに麻痺性である。

ウコン

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は主根茎又は側根茎からなり，主根茎はほぼ卵形体で，径約3 cm，長さ約4 cm，側根茎は両端が鈍形の円柱形でやや湾曲し，径約1 cm，長さ2 ～ 6 cmでいずれも輪節がある。コルク層を付けたものは黄褐色で艶があり，コルク層を除いたものは暗黄赤色で，表面に黄赤色の粉を付けている。質は堅く折りにくい。横切面は黄褐色～赤褐色を呈し，ろう様の艶がある。

本品は特異なにおいがあり，味は僅かに苦く刺激性で，唾液を黄色に染める。

本品の横切片を鏡検（5.01）するとき，最外層には通例4 ～ 10細胞層のコルク層があるか又は部分的に残存する。皮層と中心柱は内皮で区分される。皮層及び中心柱は柔組織からなり，維管束が散在する。柔組織中には油細胞が散在し，柔細胞中には黄色物質，シュウ酸カルシウムの砂晶及び単晶，糊化したでんぷんを含む。

ウワウルシ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は倒卵形～へら形を呈し，長さ1 ～ 3 cm，幅0.5 ～ 1.5 cm，上面は黄緑色～暗緑色，下面は淡黄緑色である。全縁で先端は鈍形又は円形でときにはくぼみ，基部はくさび形で，葉柄は極めて短い。葉身は厚く，上面に特異な網状脈がある。折りやすい。

本品は弱いにおいがあり，味は僅かに苦く，収れん性である。

本品の横切片を鏡検（5.01）するとき，クチクラは厚く，柵状組織と海綿状組織の柔細胞の形は類似する。維管束中には一細胞列からなる放射組織が扇骨状に2 ～ 7条走り，維管束の上下面の細胞中には，まばらにシュウ酸カルシウムの多角形の単晶及び集晶を含む。他の葉肉組織中には結晶を認めない。

ガイヨウ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は縮んだ葉及びその破片からなり，しばしば細い茎を含む。葉の上面は暗緑色を呈し，下面は灰白色の綿毛を密生する。水に浸して広げると，形の整った葉身は長さ4 ～ 15 cm，幅4 ～ 12 cm，1 ～ 2回羽状中裂又は羽状深裂する。裂片は2 ～ 4対で，長楕円状ひ針形又は長楕円形で，先端は鋭尖形，ときに鈍形，辺縁は不揃いに切れ込むか全縁である。小型の葉は3中裂又は全縁で，ひ針形を呈する。

本品は特異なにおいがあり，味はやや苦い。

本品の横切片を鏡検（5.01）するとき，主脈部の表皮の内側には数細胞層の厚角組織がある。主脈部の中央部には維管束があり，師部と木部に接して繊維束が認められることがある。葉肉部は上面表皮，柵状組織，海綿状組織，下面表皮からなり，葉肉部の表皮には長柔毛，T字状毛，腺毛が認められる。表皮細胞はタンニン様物質を含み，柔細胞は油状物質，タンニン様物質などを含む。

シャゼンソウ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は，通例，縮んでしわのよった葉及び花茎からなり，灰緑色～暗黄緑色を呈する。水に浸してしわを伸ばすと，葉身は卵形～広卵形で，長さ4 ～ 15 cm，幅3 ～ 8

cm, 先端は鋭形, 基部は急に細まり, 辺縁はやや波状を呈し, 明らかな平行脈があり, 無毛又はほとんど無毛である。葉柄は葉身よりやや長く, 基部はやや膨らんで薄膜性の葉鞘を付ける。花茎は長さ10 ~ 50 cmで, 上部の1/3 ~ 1/2は穂状花序となり, 小形の花を密に付け, しばしば花序の下部は結実してがい果を付ける。根は, 通例, 切除されているが, 付けているものでは細いものが密生する。本品は僅かににおいがあり, 味はほとんどない。

センナ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品はひ針形～狭ひ針形を呈し, 長さ1.5 ~ 5 cm, 幅0.5 ~ 1.5 cm, 淡灰黄色～淡灰黄緑色である。全縁で先端はとがり, 基部は非相称, 小葉柄は短い。ルーペ視するとき, 葉脈は浮き出て, 一次側脈は辺縁に沿って上昇し, 直上の側脈に合一する。下面は僅かに毛がある。本品は弱いにおいがあり, 味は苦い。本品の横切片を鏡検〈5.01〉するとき, 両面の表皮は厚いクチクラを有し, 多数の気孔及び厚壁で表面に粒状突起のある単細胞毛があり, 表皮細胞はしばしば葉面に平行な隔壁によって2層に分かれ, 内層に粘液を含む。両面の表皮下には1細胞層の柵状組織があり, 海綿状組織は3 ~ 4細胞層からなり, シュウ酸カルシウムの集晶及び単晶を含む。維管束に接する細胞は結晶細胞列を形成する。

ヤクモソウ

生薬の性状の項を次のように改める。

生薬の性状 本品は茎, 葉及び花からなり, 通例, 横切したものの。茎は方柱形で, 径0.2 ~ 3 cm, 黄緑色～緑褐色を呈し, 白色の短毛を密生する。髄は白色で切面中央部の多くを占める。質は軽い。葉は対生し, 有柄で3全裂～3深裂し, 裂片は羽状に裂け, 終裂片は線状ひ針形で, 先端は鋭形, 又は鋭尖形, 上面は淡緑色を呈し, 下面は白色の短毛を密生し, 灰緑色を呈する。花は輪生し, がくは筒状で上端は針状に5裂し, 淡緑色～淡緑褐色, 花冠は唇形で淡赤紫色～淡褐色を呈する。本品は僅かににおいがあり, 味は僅かに苦く, 収れん性である。本品の茎の横切片を鏡検〈5.01〉するとき, 四稜を認め, *Leonurus sibiricus*の稜は一部がこぶ状に突出する。表皮には, 1 ~ 3細胞からなる非腺毛, 頭部が1 ~ 4細胞からなる腺毛及び8細胞からなる腺りんが認められる。稜部では表皮下に厚角組織が発達し, 木部繊維の発達が著しい。皮層は数細胞層の柔細胞からなる。維管束は並立維管束で, ほぼ環状に配列する。師部の外側には師部繊維を認める。皮層及び髄中の柔細胞にシュウ酸カルシウムの針晶又は板状晶が認められる。